



安比高原の馬とレンゲツツジ

安全大会開催 3903 日無災害継続中!! (6 月 30 日現在)

『見る目 気づく目 予知する目』

一歩先読む 『安全意識』

平成 26 年度 国有林野事業安全週間スローガン

7 月 7 日(月)、安全大会を若者センターで開催しました。署長から「無災害の継続と、安全に対する心がけについて」等の挨拶があり、救命講話では、八幡平消防署安代出張所の救急救命士より、心肺蘇生法に加え AED(自動体外式除細動器)の使用方法について講習を受けました。

最後に、職場を代表して小鳥谷担当区森林官の北山勝史さんが安全宣言を行い無災害に対する決意を新たにしました。



AED の実技



最優秀賞 関本あゆみさん



安全宣言 北山勝史さん

岩手北部森林管理署 … 最優秀賞 … 関本 あゆみ さん

安全標語

『安全を 作る毎日 あなたの意識』

… 優秀賞 … 塩谷 智也 さん

『何気ない ところのゆるみが事故の元 指さしチェックで安全確認』

… 佳作 … 山田 和夫 さん

『安全作業は誰でもできる お互い決めたこと 守る意識と行動で』

三橋 健人 さん

『身につけた 日々の注意を 忘れずに いつでも引き出し災害ゼロ』



平成26年度 森林教室



平成26年度の森林教室は、八幡平市立安代小学校の5年生と八幡平市立田山小学校の5・6年生を対象とし、1年間の計画について事前に打ち合わせを行い、持続的かつ森林環境教育の推進に取り組んでいます。

また年度途中で依頼があった学校についても署職員の協力の下、積極的に取り組んでいます。



八幡平市立 安代小学校（5年生）



5月7日 『森林学習オリエンテーション』



安代小学校にて森林のはたらきや地球儀を使ってエネルギーなど学習しました。



5月30日 『森の不思議を探そう』



“あっぴ高原遊々の森”にてビンゴゲームを楽しみながら植物観察など学習しました。



八幡平市立 田山小学校（5・6年生）



5月19日 『森林学習オリエンテーション』



田山小学校にて森林のはたらきや地球儀を使ってエネルギーなど学習しました。



5月27日 『学校周辺の森林学習』



田山小学校周辺にて植物や治山ダム、地層など学習しました。



八幡平市立 安代・田山小学校合同（5・6年生）



6月18日 『子ども樹木博士』

“テン・パーク”にて樹木の名前や特徴などの説明を受けた後、答案用紙を手に思い出しながら、試験に取り組みました。

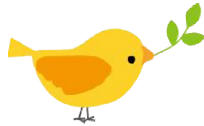


八幡平市立 大更小学校（3年生）



6月30日 『総合学習』

“あっぴ高原遊々の森”にて安比高原の自然の豊かさ、ブナの森の役目など学習しました。



八幡平市立 安代小学校（1・2年生）

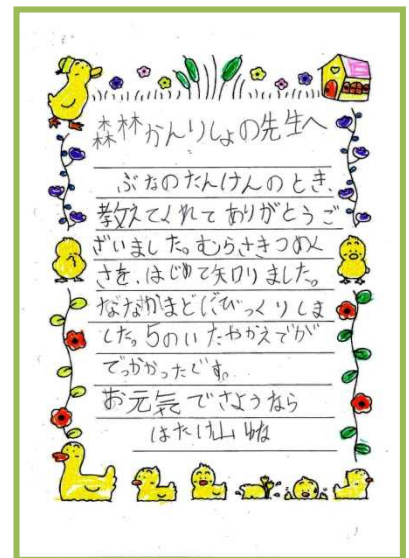
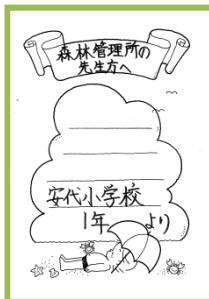


7月4日 『1・2年登山遠足』

“あっぴ高原遊々の森”にて植物観察や川遊び、ゲームをしながら元気いっぱい楽しい遠足でした。



後日、安代小学校の1・2年生の生徒さん達から、カワイイお礼状が届きました。



糞虫礼讃



主任森林整備官(経営・ふれあい担当) 有本 実

「生産者」、「消費者」、「分解者」。森林教室で子供達を相手に『食物連鎖』の話題を振る時、皆さんは「分解者」の例として何を挙げますか？キノコやカビが動物の死体や糞を分解する・・・といった説明をされる方が多いのではないのでしょうか。もちろん菌類は分解者として重要な役割を果たしていますが、主に第一次消費者に取り上げられる昆虫類の中にも、分解者として働く種が沢山います。今回はその中でも特に形態が面白い糞虫(ふんちゅう)の話題です。

糞虫とはコガネムシの仲間、動物の糞や死体などを主食としており、日本からは約 160 種が確認されています。美麗種の筆頭は何と言ってもオオセンチコガネでしょう。写真(①)の様な赤色が標準的ですが、日高山脈周辺や近畿地方の一部では緑色、紀伊半島と屋久島では瑠璃色と地方によって体色が大きく異なるのが特徴です。旅行で奈良公園を訪れる際は、足元に注意してみてください。青く輝く本種が容易に見つかります。

ツノコガネ(②)、ゴホンダイコクコガネ(③)、ミヤマダイコクコガネ(④)の3種はともに♂には立派な角がありますが、♀にはありません。カブトムシの♂の角は相手を跳ね飛ばす武器として進化したのですが、果たして糞虫の角は何の目的で発達したのでしょうか？以前、とある牧場内の牛糞に集まっていたツノコガネの行動を観察したところ、♂同士で角を交えて争う行動は見られませんでした。そもそも後ろ向きに伸長した角では戦えないですし、糞の中では邪魔なのでは・・・私の勝手な憶測ですが、角の発達具合が♀に健康をアピールするバロメータとして役立っているのかもしれない。

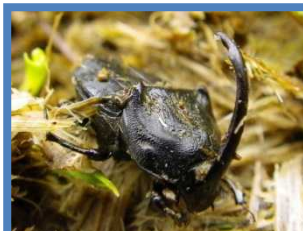
ファール昆虫記でお馴染みのフンコロガシは、後脚と中脚で糞を転がしながら球状にして運びますが、日本の糞虫ではマメダルマコガネ(⑤)が同様の行動をとります。とは言え野外で糞を転がす様子を観察するのは至難の業で、実は私も見たことがありません。何故なら本種はゴマ粒ほどの大きさしかなく、見つけること自体が難しいのです。写真の標本はイタチの糞に集まっていたもので、採集する前にしばらく観察していたのですが、残念ながら糞玉を転がしてはくれませんでした。私の殺気を感じたのでしょうか。

「糞虫」と呼ばれながらも、糞よりむしろ動物の死体(骨や体毛)を好んで食べるコブスジコガネ科という種群があります。日本からは 15 種ほど確認されており、鎧兜をまとった様な無骨な容姿が魅力的で、愛好家に根強い人気があります。写真(⑥)のアイヌコブスジコガネは、10 数頭でカモシカの古い死体に群がっていました。死体が新鮮なうちはハエやシテムシ等が利用し、古くなったらコブスジコガネが利用することで、腐敗の進行具合により一つの餌資源を多くの種で分け合っているのでしょう。

森林教室で、子供達にタヌキの溜め糞などを棒でつついて何を食べていたか見せたりする機会がありましたら、ぜひ糞虫も探してみてください。糞の表面や糞の下の地面に小さな穴が開いていれば、きっと見つかります。「コイツが糞に混じったタネも一緒に土の中に埋めてくれるから、ここから出る芽は良く育つんだ」などと解説してあげましょう。



① オオセンチコガネ (体長 18 mm)



② ツノコガネ♂(体長 10 mm)



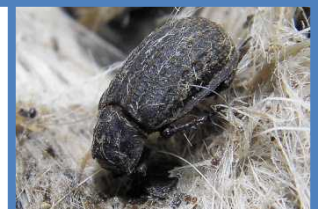
③ ゴホンダイコクコガネ♀(体長 14 mm)



④ ミヤマダイコクコガネ♂(体長 21 mm)



⑤ マメダルマコガネ(体長 2 mm)



⑥ アイヌコブスジコガネ(体長 11 mm)